

青梅街道の朝

原田 弘

私がこんとこのコラム欄をしばらく担当させていたことがあります。よろしくお願ひします。

私は、昭和二年（一九二七）今の高円寺南二丁目で生まれました。その頃は高円寺町で、家の看板には豊多摩郡高円寺村高円寺とありました。さて今年には西武、都の上で千十二支で「西武」です。西武馬車線が代表されています。十二支の西は酒を醸る都の象形文字から来たのだそうです。サンライズを付ければ酒です。

酒は神代の天照大神の御宇で人間と龍しい関係をあつたのでしよう。龍の鳴声を聞くとか何となく「もう朝だ」と明るく気持ちになるものです。



中野天神前を走る西武鉄道（30814～5年頃）

以前は高円寺をはじめ和田田ノ内松ノ木など通車でなくても何れかの道を割っていましたが早いのは四時前から動き出します。すると遠くの鐘も鳴き始めます。金魚燈籠を流くと言うのでしょうか。その声を使の音で聞いて、さうつらうつらう、やがて西の原倉、田無方面のお百姓さんや野郎など山積みにした牛車が何台もちようちんをぶら下げて朝朝の方へ通って行きます。



現在の青梅街道（山手線は七手前駅、丸の内線は七二一～二一八）にあった

次に西武電車の場合が電車から出て、ボールの切替の音が静かな空気のなかでよく響きます。やがて牛乳配達車の輪車ががらがらと音を立てて通って行きます。青梅街道の小僧さんが新聞をじっ、ピーツとして店



原田村並線（青梅線開通の30年1月撮影）

の戸のすき間から店内に落ちて行き、あのピーツという音が結構いいいと子供達はすいぶん真似したものですが少し時味が重くなりました。その時刻になると納豆売りの子供が声を張り上げて「つと」に入った納豆を売り歩いていました。ちよつと可愛相な気がしました。

昭和ち一ケタ頃までは青梅街道には本道も脇道もなく細こう（小さな道）があり時々足を落として吃られた記憶があります。道路の側にも馬々に立つつばがあり自動車も少なく、今では考えられない二階以上の建物は山崎草野の二階を除いて中野坂上までなかった頃のような話です。

原田 弘 氏

社会福祉士協会会長、日本歴史学会会員、杉並区文化財保護推進委員、日本ペンクラブ会員